



# お 知 ら せ

Vol.7

年齢を重ねると若いころに比べ時間が経つのが早く感じられますが、ある意味この1年はむしろ長く感じられた方も多いのではないのでしょうか。コロナは非常にしぶとくてなかなか出口が見えませんが、いずれ終息すると信じて、いろいろ工夫しながら贅会活動を継続しています。

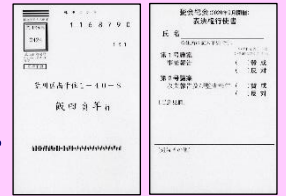
今年も“贅会からのお知らせ”をお届けします。会員の皆さんのお元気なご様子もお伝えしておりますので、学生時代の古美研仲間の顔を思い浮かべながらお楽しみいただければ幸いです。 **贅会事務局**

## この1年間の活動

### 2020年同窓祭・総会

毎年9月の秋分の日に開催される大学同窓祭がコロナ禍で中止となり、その関係で贅会総会は「書面開催」となりました。議案は(1)事業報告、(2)収支決算報告及び監査報告で、9月中旬に会員宛に総会資料と表決権行使書を送付し、9月末に採決を行いました。その結果、いずれの議案も評決権行使者154名のうち賛成154名・反対0名で承認されました。

贅会活動も例年のような懇親会やイベントが実施できず限られた活動となりましたが、この1年の主な活動を報告します。詳しくは同封の総会資料の事業報告をご覧ください。



表決権行使書

### 役員会のリモート開催



贅会の具体的な活動を協議する役員会もコロナ禍の中、昨年春以降しばらく書面開催でしたが、12月に初めてのリモート会議を実施しました(ズーム使用)。

事前に接続テストを行ったことにより当日は大きな問題もなく、全役員(10名)がパソコンやスマートフォンを使用してオンラインでつながることができました。

約2時間のリモート会議は皆が参集する通常の会議とは感覚が異なるものの、お互いの顔を見ながらの意見交換と十分なコミュニケーションをとることができました。以降3回(4月・6月・7月)実施しました。

### 古美研役員との意見交換会をリモート開催

毎年1月に行っている現役役員との意見交換会も、今年はコロナ禍で見合わせていましたが、現役の協力により4月26日にオンラインで実施できました。参加者は贅会より会長・両副会長の3名、現役は会長の柯さん(史学科)、副会長の中野さん(仏文科)、総務部長の黒田さん(経済学部)の三役3名でした。

昨年春以降長期にわたりキャンパスも閉鎖になり、新入生勧誘・研究活動・懇親会・合宿など通常の活動が全くできない中で、“贅”56号はデジタルで発行されたとのことです。我々OB・OGも経験したことのない過酷な学生生活の中、現役の皆さんが頑張っている状況を知ることができ、大変有意義な意見交換会となりました。



### 機関誌“贅”のデジタル化

機関誌“贅”は創部時より年1回発行を続け昨年度で56号を数えます。20・21号を除いて全号保管されており、在学時の研究活動の足跡として貴重な資料となっています。ただ古いものでは一部紙の痛みもあり、今後の保存を考慮して全号デジタル版(PDF)を作成しました。これからも事務局にて大切に保存を続けます。

なお会員でご希望の方には、希望する年度分のデータをDVDに記録してご提供します(実費負担)。詳しくは同封の『“贅”デジタル版申込案内』をご覧ください。



## 2021年総会も書面開催

今年の大学同窓祭は9月23日(木・祝)に開催されますが、従来のように青山キャンパスにOB・OGが集う形ではなく、オンライン配信をベースとしたイベントが計画されています。これを踏まえて、贅会総会は本年も書面開催となります。

議案は(1)事業報告、(2)収支決算報告及び監査報告、(3)役員改選で、採決は昨年と同様、表決権行使書(返信はがき)により行います。

詳しくは同封の書類をご覧ください。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。



# 贅会ホームページを見よう！

いしだたみかい

検索



贅会ホームページでは、会の活動や会員の皆さんの近況など様々な話題をアップし、随時更新して最新情報をお届けしています。  
この1年間に掲載したトピックの中からいくつかを、ダイジェストで写真中心にお知らせします。詳しくはホームページへ！  
パソコンのほかスマホやタブレットでもご覧になれますので、是非アクセスしてください！

スマホでもOK!

## 聖林寺 倉本住職から贅会へビデオメッセージ



葛城明彦さん(80年卒)と以前から交流のある聖林寺の倉本住職から、贅会へビデオメッセージが届きました。東京国立博物館特別展(～9月12日)へのお誘いと、老朽化した観音堂を改修するためのクラウドファンディングのご紹介です。  
特別展は奈良国立博物館で来年2月5日～3月27日に引続き開催されます。この機会にフェノロサや和辻哲郎が絶賛した観音様を是非ご拝観ください。  
※クラウドファンディングは9月16日に終了しましたが、それ以降も寄付等のご支援が可能です。贅会事務局へお問合せください。

## 陸前高田の松原再生支援を続けています



伊藤幸和さん(77年卒)は、経営する画廊関係の仲間とともに東日本大震災で壊滅した陸前高田の松原を再生する支援を続けていらっしゃいます。10年前に高田松原再生支援大会を企画・実行し222万円を寄付、以来9年間、年2回の支援を続け今年も75万円余の寄付をされ、その模様が地元新聞に掲載されました。  
昔あった松原になるには50年にかかるとのことと、「この支援は続けなくては全く意味がない！」と伊藤さん。地道で継続的な活動には頭の下がる思いです。

## 古美研で結ばれ金婚式を迎えました



種村清六さん(69年卒)・(西郷)千枝子さん(70年卒)ご夫妻は、3月6日(土)めでたく金婚式をお迎えになりました。古美研OB・OG同士で卒業後結婚されたご夫婦は、事務局が確認しているだけで22組いらっしゃいますが、種村さんご夫妻はその『第一号カップル』です！心よりお祝い申し上げます。  
ホームページには夫から愛妻へのメッセージ『金婚を迎えて家内に感謝』が掲載されています。愛情あふれるメッセージを是非ご覧ください。

## 東京銀座画廊で書展を開催しました



昨年12月、大島(椿)万里子さん(69年短卒)がご自身初の個展『大島泰菁書展』を開催されました。「書道は5才から始め、先生に恵まれて今日に至っています。俳句は30年程前にママ友に勧められ入会し、吟行が楽しくて今も続けています。」とのことと、会場には数多くの俳句作品が展示されていました。  
ホームページには作品の一部とともに、飯田副会長の鑑賞レポートが掲載されていますので、ご高覧のほどを。

当初想像した以上に長引くコロナ禍で、今年も「皆で集まって親睦を深めるイベントや食事会」などが実施できず、残念ながら『贅会からのお知らせ』でご報告できる記事が限られています。

そこで昨年ご好評いただいた会員の皆さんからの寄稿文を、今年も4名の方にお願ひし古美研の思い出や最近の状況・ご活躍の様子など、自由テーマで寄稿していただきました。今回は卒業8年目の若手OBの方にも寄稿していただきました。編集者の特権で皆さんより一足お先に読ませていただきましたが、それぞれ大変興味深い内容です。お楽しみください。

## ■ “シャンソンに夢中” 益永(北川)孝子さん〔1970年短大卒・建築班〕

卒業後37年の会社生活を終え、これからはやっとな自分の為だけの人生と思った矢先、友人の紹介でシャンソン教室のお誘いを受けました。

「フランス語なんてしゃべれないし」と足の踏んでいたところ、「フランス語は使わないから大丈夫」ということで、日本語で歌うシャンソンを始めた次第です。数えてみましたら、もうかれこれ14年になりました。

シャンソンの楽しみは色々あって、先ずは様々な曲を覚えて上達する楽しみ。次に発表会を目指して、聞いてくださる方に思いが伝わるよう研鑽し、ステージでの緊張感の中で今までの成果がどれだけ表現できるかという挑戦の楽しみ。そして歌のほかにも、ステージの衣装・アクセサリ・化粧・髪型などに思いを巡らすのも楽しみの一つです。

先生主催の発表会やライブハウスで歌っていました。特に発表会には先生の思いがあり、一流のミュージシャン・音響さん・照明さんにこだわるため、おかげで普段より上手く聞こえ、自己満足に浸れるのが、14年間も続いた理由かもしれません。

そんな中で特別な思い出があります。それは会社のOB会の集いにシャンソンの出演依頼があり、ワンマンショーをやったのです。昔の上司や同僚の前で歌うのはちょっといい気分、一緒に歌ったり踊ったりもあり、楽しいひと時を分かち合った思い出です。

さて近況は、昨年5月に予定していた発表会が、コロナの緊急事態宣言により延びに延び、やっとこの5月に開くことができました。しかしながらこのご時世により、用意していた570席の大ホールが、無観客での発表会となってしまいました。それでもこの自粛生活に雲の晴れ間のように明るく楽しいひと時を頂きました。

これからもシャンソンを歌って、楽しく生きていけたらと思います。



## ■ “リベンジ！ 夏合宿” 箱田(渡邊)照穂さん〔1976年日本文学科卒・建築班〕

還暦を過ぎた頃、度々、古美研の夏合宿が思い出された。40年余り前は温暖化も熱中症も騒がれていなかったが、ハンパない暑さの京都奈良の炎天下を一日中歩き回り、夜は勉強会で、古美研愛溢れる先輩方にしぼられるという苦行だった。当時の建築班は体育会系？で特に厳しかったので、せめて選択コースの日は庭園や仏像を見に行きたかったが、後輩愛溢れる先輩から、建築を見に行くコースを指定された(泣)。

そこで、まだ歩き回れる今こそ、あの合宿で遂げられなかった事をリベンジしようと計画した。1. 夏は絶対に行かない 2. 行ったことのない所に行く 3. 行きたかった所や好きな所には何度でも行くetc. そして、その後コロナ禍までの数年、毎年京都奈良に出かけた。

毎日が日曜の年金生活者を良いことに、梅桜、新緑、紅葉の時期に、特別拝観や予約拝観、祭り等に合わせて出かける贅沢な旅。

近くの茨城空港に駐車(無料)、神戸空港から私鉄を使うと自宅から3時間位で目的地に到着(新幹線より安い)。会員のビジネスホテルを常宿に、バスのフリーパスで市内外を移動。この方法だと疲れも少ないし低予算で済むので、前期高齢者でも大丈夫(笑)。バス路線は充実しており便利で、乗り換えを考えるのも楽しい。1日2万歩以上歩くが、ストレスがないから疲れが早い。懐かしいイノダコーヒー、三木半旅館や日吉館周辺も訪れた。

そうして、行きたい所に行き、見たいものを見てきて感じるの「やっぱり私は建築物が好き」ということ。建築班万歳！先輩ありがとう！古美研・贅会に感謝！！

来年こそ、祇園祭で山鉾を巡行して疫病を退散させ、コロナの心配なく「京都奈良・夏合宿リベンジの旅」を再開できるよう祈っている。



孫が描いた似顔絵



談山神社



奈良県庁屋上からの大仏殿



桂離宮

## ■ “聖林寺十一面観音像特別展に寄せて” 池知正昭さん〔1982年史学科卒・建築班〕



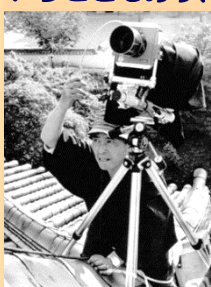
七月上旬、モデルナのワクチンを接種しました。その後ふと思ひ立ち、仕事までの空き時間に、東京国立博物館で開かれている聖林寺の十一面観音像の特別展示を見てきました。

新しくできた上野駅公園口を出て上野公園の中を抜け、東京国立博物館に到着しました。コロナ禍で、特別展は全て事前予約制になっていましたが、無事当日券が手に入り、全く待たずに入場できたのは幸運でした。入場者を制限しているため、以前の特別展と比べると、ガラガラという良い空き方でしたが、おかげで、ゆっくりと拝観できました。

今回の特別展では、聖林寺の十一面観音像と同様に、廃仏毀釈で廃された大神神社の神宮寺である大御輪寺から流出した仏像も展示されていました。

聖林寺の十一面観音像は、普段お寺では収蔵庫のガラス越しにしか拝観ができませんが、昭和の終わり頃、土門拳さんの撮影中でガラスが外されていて、直接拝観できるという幸運に恵まれた事がありました。淡い間接光の中での十一面観音像は、すごく穏やかに見えました。

今回の展示では、天平末期の造立ながら密教の雰囲気を感じさせる十一面観音像が、薄暗い中でライトアップされて屹立し、厳しさの中にも慈悲の心を感じられました。空いているということもあり、四方八方から堪能させて頂きました。



一緒に展示されていた仏像では、正暦寺の月光菩薩像に目がとまりました。体も細い上、あまり他に見ない細面をされていて、10~11世紀頃の密教彫刻の豊満さ・力強さと異なった雰囲気でした。ワクチン二回目の接種が終わって抗体を獲得できたら、未踏の正暦寺を是非訪ねてみようと思います。

皆様がこの未曾有の国難を、無事乗り越えられることを祈っております。

十一面観音立像



編集者註：土門拳は、入江泰吉とともに昭和を代表する写真家で多くの寺院・仏像を撮影しており、シニアの古美術OB・OGにとっては大変馴染み深く懐かしいですね。写真(左)は「土門拳記念館(山形県酒田市)」HPより。

## ■ “明るい未来を願って。近況報告とともに” 粉川 豊 さん〔2014年史学科卒〕

2014年に卒業。社会人生活も早いもので8年目に突入しようとしています。

卒業後、私はJR東日本に入社し2019年から運転士として働いています。現在の乗務線区は常磐線いわき～仙台間。乗務線区は東日本大震災と原子力災害、二つの災害に見舞われた地域で、昨年3月全線開通致しました。復興に少しでも携われていることに誇りに感じています。

全線開通した2020年は、私生活においても大きな変化があった年でした。以前よりお付き合いしていた妻、理紗子と入籍した年でした。



常磐線(四ツ倉～久ノ浜)

ぜひ福島浜通り地区へ!



結婚式(左：粉川、右：井上)

2020年は世界にも大きな変化があった年だったというのは、ご承知の通りかと存じます。変化をもたらしたコロナウィルスは、私たち夫婦もちろんのこと変化を余儀なくされました。夢の地中海クルージングの新婚旅行は中止、結婚式は入籍から1年後に。

今年ようやく式を挙げることができました。こびけんの同期の井上敬一郎君も同じく1年遅れで今年結婚式を挙げました。お互いの結婚式(井上：博多、粉川：軽井沢)に立ち会えたのもコロナ禍において明るい希望を感じさせる出来事でした。

原稿依頼を頂いた今、東京オリンピック・パラリンピックが開催されています。大会開催までは、いろんな事がありましたが、選手たちの頑張りをしていると、将来に同じく明るい希望が見出せてきます。

コロナウィルスで美術館・博物館の展覧会へ訪れたり、名所古刹を訪ねる旅行に行きづらかったりする世の中ですが、ワクチン普及がさらに進めば、徐々に明るい兆しが見えてくると思います。

最後になりますが、古美術研究会、盤会が明るい希望とともに活動ができることを祈っています。



妻も歴史専攻。一緒に美術展や名利に訪れています。(左：Reborn-Art Festival、右上：富貴寺大堂、右下：白水阿弥陀堂)

<会員の連絡先調査と個人情報の取り扱いについて>

事務局ではお一人でも多くの古美術OB・OGの方々の連絡先調査を行っております。皆様のご協力をいただきたくよろしく申し上げます。なお、皆様からお預かりした個人情報は盤会及び古美術活動にのみ利用し、それ以外には一切利用しません。(個人情報管理責任者=会長、個人情報管理者=総務担当副会長)

■発行日：2021年9月20日 ■発行責任者：長谷川和芳(74年卒) ■広報担当副会長：亀村 通(78年卒)  
 ■連絡先：<Eメール> ishidadamikai@gmail.com <携帯電話> 亀村080-9556-7145 長谷川070-3824-2800  
 ■ホームページ：http://ishidadamikai.jimdo.com/ ホームページの「お問い合わせ」ページからもコンタクトできます。